
七色の涙

パニック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七色の涙

【Zマーク】

Z5909M

【作者名】

パニック

【あらすじ】

見上 皐月はクラスから冷酷少女と言われている。そんな皐月には皆に言えない秘密があるがー？あの日の記憶探しに一人の少女が立ち向かう！

消えた記憶

田を闊むれば見えてくる遠い昔の記憶—

耳をすまば、聞ひてゐるあの時聴いた風の聲—

でもじつに誰に出せなこ

あの日の記憶が—

～七色の涙～ 第1話

清々しい朝に小鳥達の歌声

360度どこ見ても山、山、山！

渋滞かと思えば、軽トラが2台止まっているだけ
こんなド田舎に小さな事件が舞い降りてきた。

おはよー、ヒクラスのみんなが声を掛けてくる

あ うん

と、素つ気ない返事をするのが私流

私は見上みかみ 皇月おつき。高1、性格はサバサバ、クール、冷酷、真面目、
まあ、ざつとこんなもんだらう。クラスのやつに聞けば大抵この結果
でも、あたしには皆に隠していることがあったー

それは・・・

「・・・木下さん、最近肩凝つてない？」

「えっ？！見上さん、なんで
わかったのー？」

学年で1番美人の木下ゆりなー

元気があって積極的で、そして長く美しい髪は誰もが彼女の虜となるだろう

あたしは嫌いだけど

やつぱり・・・

「いや、顔色が良くなさげだったから」

「嘘ー？ 急いでお化粧でカバーしなくちゃーありがとね、見上さん！」

いや、違つとすけど

そうじつて、木下ゆりなはパタパタと足を急がせながら教室からでていった

なんかひざこ

そう思いながら広く澄んだ空を見て呟いた

誰にも言えないこと

それは、あたしにはこの世に存在しないモノが見えるといつーと・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5909m/>

七色の涙

2010年10月9日04時01分発行